

山陰地質情報展チャレンジコーナー -化石のレプリカを作ろう-

利光 誠^{1,2)}・坂野 靖行¹⁾・柳沢 幸夫¹⁾・中澤 努¹⁾

化石の中で人気のあるものといえば、恐竜、アンモナイト、そして三葉虫といったところが大方の意見の一致するところでしょう。これを裏付けるかのように、過去3回の地質情報展(九州, 甲信越, 中部)では三葉虫やアンモナイトのレプリカ作製希望者が多くなっています。参加者のリクエストに沿えるようにと、今回の山陰地質情報展では、3大人気を誇るもう一つの化石、恐竜に関するレプリカ作製

を加えてみました。

山陰地質情報展では、三葉虫(*Pseudogigantes canadensis*: カナダ産)、アンモナイト(*Gaudryceras striatum*: 北海道産)、恐竜の歯(*Carcharodontosaurus saharicus*: モロッコ産)、ほ乳類の歯(*Desmostylus hesperus*: 米国産)の4種類の化石レプリカの準備をしました(写真1)。いずれも古生代、中生代、新生代といった地質時代を代表する

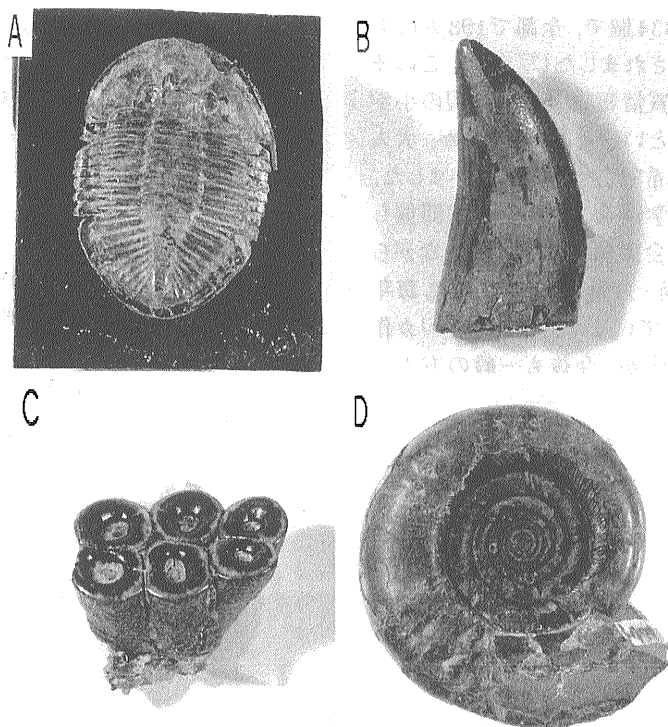


写真1 レプリカの原型となった標本。A: 三葉虫(*Pseudogigantes canadensis*: GSJ F7704), B: 恐竜の歯(*Carcharodontosaurus saharicus*: GSJ F15283), C: ほ乳類の歯(*Desmostylus hesperus*: GSJ F15284), D: アンモナイト(*Gaudryceras striatum*: GSJ F4880)。

1) 産業技術総合研究所 地球科学情報研究部門
2) 産業技術総合研究所 地質標本館

キーワード: 山陰地質情報展, 化石, レプリカ作製, 体験型イベント

化石です。この内、三葉虫は平面的な標本ですが、その他の3つの標本は立体的で、レプリカとしても立体感を楽しめるように工夫しました。いずれもレプリカの本標本が地質調査所地質標本館に登録・保管されているものであり、当日は原標本を会場に展示して、希望者には作製したレプリカと比較できるようにしました。レプリカの作製方法は過去3回の地質情報展と同じように歯科用印象材のビニルシリコンによりあらかじめ化石の型を準備し、これに水と練和した石膏を注ぎ込むというやり方です(地質ニュース2000年2月号29-30頁参照)。出来上がりは石膏による白模型ですので、レプリカを作製者が記念品として持ち帰った後、水彩で塗色できるように、原標本の写真(カラーコピー)をラベルに添えておくようにしました。

山陰地質情報展でのレプリカ作製の成果は、三葉虫89個、アンモナイト106個、恐竜の歯77個、哺乳類の歯62個の合計334個で、全部で193の方がレプリカ作製体験をされました(写真2)。このイベントの主な対象は地質情報展開催地周辺の小学校高学年～中・高校生といったところですが、大人や大学生などにも作製希望者が案外多くいました。また、日本地質学会の学術大会と並行して開催している関係上、地質学会関係者の中に多少ながらリピーターがいて、企画・運営する側としても毎年の“再会”を楽しみにしています。化石レプリカ作りという簡単な体験ですが、今後も一般の方々に

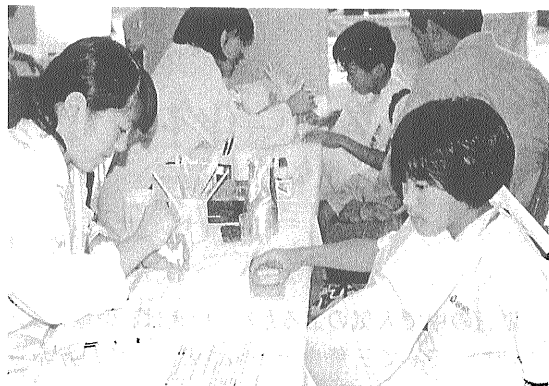


写真2 化石レプリカ作りにチャレンジする子供たちと講師として活躍する島根大学の学生たち。

地球科学に親しみをもっといただくきっかけとなるよう心掛けていきたいと思っています。

この化石レプリカのチャレンジコーナーは著者4名のほか島根大学の学生7名の協力を得て運営されました。また、当日は地質情報展事務局(地質調査所産学官連携推進センターほか)の方々の献身的な広報活動により多くの参加者を呼び集めることができました。関係の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

TOSHIMITSU Seiichi, BANNO Yasuyuki, YANAGISAWA Yukio and NAKAZAWA Tsutomu (2001): A special section for a experience of making fossil replicas in the San-in Geologic Exhibition.

<受付: 2001年1月31日>